

＜学力向上に向けた自校の取組＞

～教科担当制をもとにしたチームによる指導体制づくり～

みどり市立大間々北小学校

1 教科担当制指導と合同授業の導入

(1) 教科担当制指導

音楽専科や、社会と理科、外国語活動(5・6学年)で交換授業を行うなどして3学年以上で教科担当制を導入することで、教師の専門性を生かした教科指導や教材研究時間の軽減による指導の充実を図る。さらには複数の教師の目で子どもたちを見守ることにより児童理解を深め、教師一人一人の責任ある指導体制づくりによる質の高い授業の提供を目指す。

教科担当制を導入している学年・教科

	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	家庭	外国語
3年1組(A教諭)		A	A L	B	K				
3年2組(B教諭)		A	B L	B	K				
4年1組(C教諭)		D	C L	C	K				
4年2組(D教諭)		D	D L	C	K				
5年1組(E教諭)		F	E F J L	H	K			K	E
5年2組(F教諭)		F	E F J L	H	K			K	E
6年1組(G教諭)		J	G H J L	G	K			K	E
6年2組(H教諭)		J	G H J L	G	K			K	E
特別支援(I教諭)					K			K	E

教務(J教諭) 音楽専科(K教諭) 学力向上対策支援員(L教諭(マイタウンティーチャー))

※算数について

3・4学年・・・担任+学力向上対策支援員(L教諭)によるTTを実施。

ただし、1組と2組が同じ時間に算数をしているため、L教諭が入ったTTの授業は2時間中1時間。(1組と2組で交互に実施)
今後、単元によっては、学年を習熟度で2つのクラスに分けて指導する。

5・6学年・・・習熟度により2学級を3クラスに分ける。

1・2組担任+教務(J教諭)+学力向上対策支援員(L教諭)の4名で行う(2クラス・4指導者)。

下位クラスのみ、担当教諭と学力向上対策支援員(L教諭)によるTTで行う。

(2) 合同授業

①体育・音楽をはじめとして、国語・図工・社会・総合など、授業のねらいに併せて合同授業を実施している。特に体育や音楽などは、互いに刺激を受けながら高め合う点で効果を上げたり、リコーダー講習会や琴教室など地域ボランティアを招いての授業では、互いに助け合ったりなど効果的な取り組みが見られている。

- ② 1・2学年では教科担当制指導は行っていないが、音楽や体育を始め、各教科で適宜合同授業を実施しており、特別支援教育支援員を加え、チームとして学年全体を指導し、学力向上を目指す。

2 算数における習熟度別少人数指導(5・6学年)とTTの導入

(1) 学力向上コーディネータの有効活用

3・4学年におけるTT指導、5・6学年における習熟度別少人数指導を効果的に実施するために、学力向上コーディネーターが中心となって指導計画を作成し、指導内容・時数・進度の管理を行う。また、思考・作業活動を重視する単元では、習熟度に応じた指導や小グループでの意見交流を充実させ、数学的な思考力・表現力の向上を目指す。

(2) 5・6学年の習熟度別少人数指導(2クラス・4指導者)の成果アップのために

- ① 単元のはじめでは、レディネステストの結果と教師の見取りによる形成的評価、児童の希望を勘案して、クラスの編成を行っている。
- ② 単元のはじめや途中でも、互いの授業を見合い、提示する教材や課題を指導者の打ち合わせをもとに話し合っている。
- ③ 全てのクラスで、学び合いに重点を置くが、上位群では、思考の高まりを重視した授業と難易度の高い問題練習を中心に、中位群ではやや時間をかけた丁寧な学び合いと問題練習を中心に、下位群は人数を半分以下にして、さらにTTでの指導によりよりきめ細かな指導を行い、基礎基本の定着を中心に授業を計画立案・実施するようにしている。

(3) ティームティーチング指導

全学年で実施しているみどり市学力調査の結果より、わり算でのつまずきが目立つことから、本年度より3・4学年で学力向上支援員とのTTを実施している。

3 教師の指導力向上を目指した校内研修を中心とした授業改善

(1) 「はばたく群馬の指導プラン」をもとにした授業改善

「はばたく群馬の指導プラン」をもとにした授業改善を校内研修の中核にすえ、教科担当制を導入している教科においても、職員相互の授業公開や模擬授業等を行い、授業力向上研修を充実させる。また、管理職や学力向上コーディネーター(教務)による視点を焦点化した授業参観・事後指導を行い、一斉授業や少人数指導、TTなどそれぞれの指導形態に応じた教師の指導力の向上を図る。

(2) 協働学習による高め合い

今年度は「自主的に学ぶ児童の育成」を研修テーマとし、授業において協働学習により高め合うことを目指して、「北小授業デザイン」(※別紙①参照)の改訂とともに教師の働きかけのモデル化、形態・ツール・活動の工夫を中心に、授業研究研修を行っている。

(3) 家庭学習につなげる板書の工夫とノート指導

昨年度までの授業改善に関する校内研修の共通事項として、ねらい・まとめを明示するとともに、学習の過程を振り返ることができる板書方法とノート指導を徹底し、家

庭学習に役立つノートづくりを継続している。(※別紙②参照)

4 校内研修の基礎基本研究研修による基礎基本の定着のための取り組み

(1) パワーアップタイム

伸ばしたい基礎・基本と活用力の伸長の場として、毎日の授業はもとより、パワーアップタイム（5校時開始前の10分間）と家庭学習、放課後補充学習を設定する。また、検証の場として、年間3回の国語・算数グランプリを設定し、子どもたちのグランプリへの意欲が継続するような、システム作りと家庭を巻き込んだ取り組みを工夫していく。（国語・算数グランプリは、昨年度より基礎基本70点+活用30点とし、100点金賞、90点以上銀賞、80点以上銅賞を授与する）

(2) 北小学力向上サイクル(例) 【5学年のパワーアップタイム及び家庭学習課題】

	8・9	10	11	12	1	2	3	4・5	6	7
	学テ・グランプリの結果分析		改善策の検討と教材の選定		グランプリ・学力調査の結果分析		改善策の検討と教材の選定		1年間のまとめ改善策策定	
	夏プ第 季レ2 休グ回 業ラグ 課ンラ 題ンラ リプ リ	グ学問 ラ力題 ン調活 ブ査用 リ分資 分析料 析活用	休冬 業期 前休 復業 習課 題	ブ第市 レ3学 グ回力 ラグ調 ンラ査 ブ リプ リ	グ学問 ラ力題 ン調活 ブ査用 リ分資 分析料 析活用			ブ第全 レ1国 グ回学 ラグ力 ンラ調 ブ ンラ リ		
国 語 G に 向 け た 取 組	漢字ドリル									
	e-ライブラリ									
	フォローアップ									
	県評価資料集									
	学テ（過去問）									
	学テ									
	学テ									
	N I E（読売ワークシート）									
	漢字									
	主語・述語・修飾語									
	故事成語・同義語・反対語・敬語									
	作文指導									
	長文・活用問題									
算 数 G に 向 け た 取 組	計算ドリル									
	e-ライブラリ									
	フォローアップ									
	県評価資料集									
	学テ（過去問）									
	学テ									
	学テ									
	アイテム・アイテム+									
	計算技能									
	計算・図形技能									
	技能定着と活用問題									

(3) パワーアップタイムや家庭学習における取り組み（5学年の例）

○各学年とも、前学年から10月までの学習内容を上記教材を用いて11月より冬季休業終了後まで取り扱い、1月第一週で復習とプレグランプリ（グランプリ練習）を、第二週に第3回グランプリを行う。

- ・11月中は、国語では漢字ドリルとe-ライブラリで、漢字の読み書き、主語述語修飾語、文法、故事成語、同義語、反対語、敬語を繰り返し学習する。算数ではアイテム、アイテム＋、フォローアップシート、e-ライブラリを中心に、計算と図形を繰り返し学習する。
- ・12月は、国語では11月の学習に加え作文指導を行う。「(第1段落)結論、(第2段落)理由」の2段落構成で文章を書く練習をする。題材については学年で統一して、全クラスで同じ問題に同じ日に取り組む。算数ではフォローアップシート、e-ライブラリ、評価資料集を中心に、計算と図形と活用問題に取り組みさせる。
- ・冬季休業中の課題は11・12月の振り返り教材と全国学力学習状況調査の過去問を用いることとし、冬休みの業者ドリルは購入しない。
- ・1月は、冬季休業中の課題の確認と、国語では評価資料集の長文問題に取り組む。また、算数ではフォローアップシート、e-ライブラリ、評価資料集を中心に復習させ、子どもたちの意識を高めた上で、プレグランプリと第3回グランプリを行う。

○第3回グランプリの結果分析を1月中に行い、各学年とも、前学年から1月までの学習内容を2月より学年始め休業終了後まで取り扱い、4月第一週で復習とプレグランプリを、第2週に第1回グランプリを行う。

- ・2月中は、評価資料集を中心に、国語ではe-ライブラリと合わせて、漢字の読み書き、主語述語修飾語、文法、故事成語、同義語、反対語、敬語を繰り返し学習する。算数ではアイテム、アイテム＋、フォローアップシート、e-ライブラリを用いて、計算と図形を繰り返し学習する。
- ・3月は、これまで取り組んでいたNIE学習である読売ワークシート通信の振り返りを行い、NIE学習の1年のまとめを行う。また、学年始め休業中の学習に向けて、評価資料集とe-ライブラリ、算数はさらにアイテムを利用した学習に取り組む。
- ・学年始め休業中の課題は、2・3月の振り返り教材と全国学力学習状況調査の過去問を用いることとし、春休みの業者ドリルは購入しない。
- ・4月は、学年始め休業中の課題の確認と、プレグランプリおよび第1回国語・算数グランプリを行う。
- ・前年度第3回グランプリと新年度第1回グランプリの結果分析をもとに、各学年の基礎・基本及び活用力の学習を振り返り、改善計画と新たな取り組みを検討していく。みどり市学力テストと全国学力・学習状況調査の結果も十分に勘案して、PDCAサイクルにかけ、改善策を検討していく。

5 成果と課題

(1) 成果

○社会、理科では、指導する教科数が減るため、教材研究に多くの時間を取ることができ、授業の質を高めることができた。

- 理科では、思考に重点を当てた観察や実験をこれまで以上に充実することができた。特に、実験の準備や後片付けが合理的になるため、観察・実験の量と質を高めることができた。全国学力学習状況調査の結果（平成27年）も大変良好で、理科好きの児童の割合が多くなっていることがうかがえた。
- 3、4学年の算数では、TTで授業を行うことで複数の目で児童を見ることができ、個に応じたきめ細かな指導を進めることができるようになった。
- 5、6学年の算数では、指導者の連携を密にした習熟度別少人数指導を行うことで、習熟度に合わせた授業展開や適用問題を考え、指導していくことができた。全国学力学習状況調査の結果（平成27年）において、活用力が高かったことから、この取り組みにより、特に中・上位群の学力が伸びていることが判明した。
- 音楽では、3学年から専科の教諭が指導しているため、4年間を見通して、系統的に授業を構成しやすくなった。
- 外国語活動では、教科担当制により一人の教員が5・6学年の外国語活動を担当しているため、ALTとの打ち合わせをスムーズに行うことができ、外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを実感させる質の高い授業になった。
- 教科担当制をもとに、場面に応じて、学年チーム、低中高学年ブロックチーム、全校チームとしての指導体制づくりを進めたことで、職員室での子どもの話題が多くなり、生徒指導上様々な効果を上げている。

（2）課題

- 学年をまたいだ教科担当制も行っているため、他学年の行事や教師の出張などにより授業交換等で自習を避けるようにしているものの、教科ごとの授業時数確保に課題がある。
- 5・6学年の算数は習熟度別で行っているが、習熟度別クラスごとのねらいや課題提示を打ち合わせする時間が十分にとれない。学校全体で定期的に行えるような時間の確保が必要である。
- 授業の様子などで迅速に伝えなければならないことが、担任にすぐに伝えられないことがある。